環境省
Ministry of the Environment

気候変動科学・適応室から情報提供

地球環境局　総務課　気候変動科学・適応室

2026年８月

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
Re-Style
デコ活 くらしの中のエコろがけ
つなげよう、支えよう 森里川海
Plastics Smart

気候変動適応計画の改定について

第３次気候変動影響評価報告書のポイント(概要)

環境省

第３次気候変動影響評価においては、以下を踏まえて実施。

①最新かつ広範な科学的知見を反映　**②影響の重大性の評価を2段階から３段階に細分化**

③特に強い影響を受ける地域や対象の整理　**④適応策及びその効果に関する知見の整理**

現状から将来予測にわたって重大性・緊急性・確信度が高いなど**特に優先的に対応が必要な項目※が明らかになった。**

※重大性（現状、1.5～2℃上昇時、3～4℃上昇時）・緊急性・確信度の評価が全てレベル３の項目及び分野別WGで、重大性及び緊急性がレベル３かつ、新たに追加された項目又は社会的関心の高さ等を勘案して取り上げるべきとされた項目

特に優先的に対応が必要な項目の影響の概要

【農業・林業・水産業】

水稲：コメの収量・品質低下

果樹：ミカン・リンゴ等果樹の栽培適地の変化

農業生産基盤：大雨による農地・農業設備への被害

沿岸域・内水面漁場環境等：海水温の上昇によるワカメ等の不漁

【水環境・水資源】

水供給(地表水)：渇水の増加・農業用水等の不足

【自然生態系】

亜熱帯：珊瑚の白化現象の頻度増加

温帯・亜寒帯：海藻等の分布域の縮小・北上

分布・個体群の変動：生物の分布域の変化



白化した珊瑚
「サンゴ礁生態系保全行動計画2022-2030」
（環境省）

【自然災害・沿岸域】

洪水：洪水の発生地点数の増加

内水：内水氾濫の可能性の増加・浸水時間の長期化

土石流・地すべり・土砂流出等：時間降水量の増加による土砂災害発生件数の増加



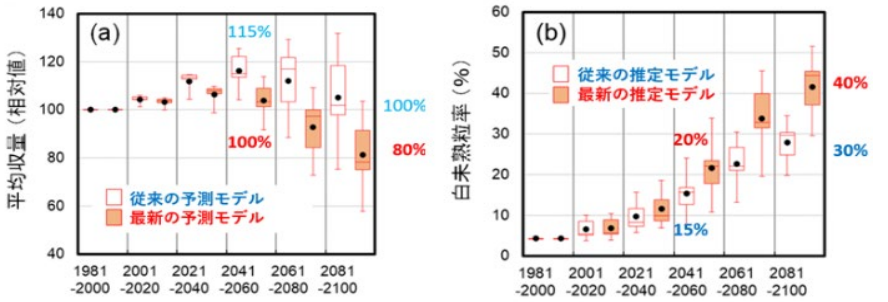
福岡県久留米市の巨瀬川氾濫（令和５年）
「災害・防災情報：6月29日からの大雨」
（国土交通省）

【健康】

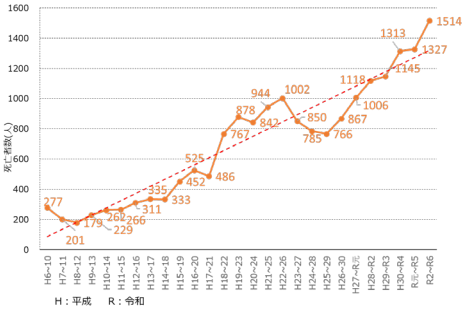
暑熱：気温上昇に伴う、熱中症による救急搬送者数・死亡者数の増加や循環器系疾患等での死亡率・入院・救急搬送者数の増加

【産業・経済活動】【国民生活・都市生活】

インフラ・ライフライン等：大雨・台風等による電気・ガス・水道などのライフラインの寸断



水稲の収量(a)および白未熟粒率(b)の20年毎の推移(全国平均)(RCP8.5)
(Ishigooka et al., 2021)



熱中症による死亡者(５年移動平均)の推移
（人口動態統計から環境省作成）

【参考】気候変動影響評価結果（一覧）

環境省

80の小項目ごとの気候変動影響について、重大性、緊急性、確信度それぞれの評価結果を色の違い等で整理

大項目	小項目	重大性(確信度)			緊急性(確信度)
		現状（約1℃上昇）	1.5～2℃上昇時	3～4℃上昇時	
農業・林業・水産業					
農業	水稲	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	野菜等	レベル2 (***)	レベル2 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (***)
	果樹	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	麦、大豆、飼料作物等	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル3 (**)
	畜産	レベル3 (***)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (***)
	病害虫・雑草等	レベル2 (***)	レベル3 (*)	レベル3 (*)	レベル3 (***)
	農業生産基盤	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	食料需給	レベル2 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)
林業	木材生産（人工林等）	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)
	特用林産物（きのこ類等）	レベル2 (***)	レベル2 (*)	レベル2 (*)	レベル3 (***)
水産業	回遊性魚介類（魚類等の生態）	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)
	増養殖業	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)
	沿岸域・内水面漁場環境等	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)
水環境・水資源					
水環境	湖沼・ダム湖	レベル1 (**)	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル2 (**)
	河川	レベル1 (**)	レベル1 (**)	レベル1 (**)	レベル1 (**)
	沿岸域及び閉鎖性海域	レベル1 (*)	レベル1 (*)	レベル2 (**)	レベル1 (**)
水資源	水供給（地表水）	レベル2 (***)	レベル2 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	水供給（地下水）	レベル1 (*)	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル3 (**)
	水需要	レベル1 (*)	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル2 (**)
自然生態系					
陸域生態系	高山・亜高山帯	レベル3 (***)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (***)
	自然林・二次林	レベル1 (***)	レベル1 (***)	レベル3 (***)	レベル2 (***)
	里地・里山生態系	レベル1 (**)	レベル1 (**)	レベル2 (**)	レベル2 (**)
	人工林	レベル1 (*)	レベル1 (**)	レベル2 (**)	レベル2 (**)
	野生鳥獣による影響	レベル2 (***)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (***)
淡水生態系	湖沼	レベル3 (**)	レベル3 (*)	レベル3 (*)	レベル3 (**)
	河川	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)
	湿原	レベル3 (*)	レベル3 (*)	レベル3 (*)	レベル3 (*)
沿岸生態系	亜熱帯	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	温帯・亜寒帯	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
海洋生態系	海洋生態系	レベル2 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)
物質収支	物質収支	レベル2 (**)	レベル2 (*)	レベル2 (*)	レベル3 (**)
生態系サービス	生態系サービス	レベル2 (***)	レベル2 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
その他	生物季節	レベル1 (***)	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル2 (**)
	分布・個体群の変動	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
自然災害・沿岸域					
河川	洪水	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	内水	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
沿岸	海面水位の上昇	レベル1 (*)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	高潮・高波	レベル2 (**)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (**)
	海岸侵食	レベル2 (**)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (**)
山地	土石流・地すべり・土砂流出等	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
その他	強風等	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)

大項目	小項目	重大性(確信度)			緊急性(確信度)
		現状（約1℃上昇）	1.5～2℃上昇時	3～4℃上昇時	
健康					
暑熱	死亡リスク	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	熱中症	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	疾病発生・悪化、死因別死亡リスク	レベル3 (***)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (***)
感染症	水系・食品媒介性感染症	レベル1 (**)	レベル1 (**)	レベル1 (**)	レベル1 (**)
	節足動物媒介感染症	レベル2 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	その他の感染症	レベル1 (**)	レベル1 (*)	レベル1 (*)	レベル1 (*)
その他	温暖化と大気汚染の複合影響	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル3 (**)
	メンタルヘルスへの影響	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)
	自然災害に起因する健康影響	レベル3 (***)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (***)
	冬季の健康影響	レベル1 (**)	レベル1 (**)	レベル1 (**)	レベル1 (**)
	その他の健康影響	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル3 (**)
産業・経済活動					
産業	全般	レベル2 (***)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (***)
	製造業	レベル1 (***)	レベル2 (*)	レベル3 (*)	レベル2 (*)
	食料品製造業	レベル2 (*)	レベル2 (*)	レベル3 (*)	レベル3 (*)
	エネルギー産業	レベル1 (**)	レベル2 (***)	レベル2 (***)	レベル2 (***)
	原材料業	レベル1 (**)	レベル3 (*)	レベル3 (*)	レベル2 (*)
	商業	レベル1 (**)	レベル3 (*)	レベル3 (*)	レベル2 (*)
	金融・保険業	レベル1 (***)	レベル1 (**)	レベル1 (**)	レベル1 (**)
	観光業	レベル1 (*)	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル2 (**)
	建設業	レベル2 (***)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (***)
	情報・通信業	レベル1 (*)	レベル1 (*)	レベル2 (*)	レベル1 (*)
	運輸業	レベル1 (*)	レベル2 (*)	レベル3 (*)	レベル2 (*)
	不動産業	—	レベル2 (*)	レベル2 (*)	レベル2 (*)
	サービス業	レベル1 (*)	レベル2 (*)	レベル3 (*)	レベル2 (*)
	医療・福祉・製薬業	レベル2 (*)	レベル2 (*)	レベル2 (*)	レベル3 (*)
	衣料品製造業	レベル1 (*)	レベル1 (*)	レベル2 (*)	レベル1 (*)
海外影響	海外からの2次的影響	レベル1 (*)	レベル1 (*)	レベル1 (*)	レベル1 (*)
国民生活・都市生活					
健全な生活とその基盤	インフラ・ライフライン等	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	医療・福祉、教育	レベル2 (***)	レベル2 (*)	レベル2 (*)	レベル3 (***)
	飲食	レベル1 (*)	レベル2 (*)	レベル2 (*)	レベル2 (*)
	住宅・住居	レベル2 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	労働・消費	レベル2 (**)	レベル2 (*)	レベル3 (*)	レベル3 (**)
	健康的な暮らし	レベル2 (***)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (***)
	レジャー・大規模イベント	レベル2 (***)	レベル2 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	災害避難	レベル2 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
精神的な基盤	自然環境	レベル1 (**)	レベル1 (*)	レベル1 (*)	レベル1 (*)
	文化・歴史	レベル1 (*)	レベル1 (*)	レベル1 (*)	レベル1 (*)
	地域社会	レベル2 (*)	レベル2 (*)	レベル2 (*)	レベル3 (*)
世代間・世代内公平性	公平性・社会的弱者への配慮	レベル2 (***)	レベル2 (*)	レベル2 (*)	レベル3 (***)

<凡例>

重大性		
レベル1	レベル2	レベル3

緊急性		
レベル1	レベル2	レベル3

確信度		
レベル1 (*)	レベル2 (**)	レベル3 (***)

気候変動適応計画改定に関する今後の検討スケジュール

6月25日	気候変動適応推進会議 ・次期気候変動適応計画の骨子について
夏頃	中央環境審議会　気候変動影響評価・適応小委員会 ・自治体、気候変動適応センター、事業者等からのヒアリング
秋～冬頃	中央環境審議会　気候変動影響評価・適応小委員会 ・計画改定素案について 気候変動適応推進会議　幹事会 ・計画改定案について パブリックコメント
2026年度内	気候変動適応推進会議 ・閣議決定案のまとめ　➡　閣議決定
2027年度～	・改定された計画に基づき、気候変動適応推進会議　幹事会等でKPIを検討

次期気候変動適応計画　骨子の概要

環境省

■ 関係主体の行動変容を促し、気候変動適応の実践につなげていくことに重点をおいた基本戦略へ刷新。
■ 基本戦略を基にして、気候変動適応に関する分野別施策及び基盤的施策を推進していく方針を示す。

1.目標　気候変動適応を推進し、安全・安心で持続可能な社会を構築

2.基本戦略　関係主体の行動変容を促し、気候変動適応の実践につなげていくことに重点をおいた基本戦略（p.３）

これらに基づいた各種施策の展開

- 深刻な影響に対して適応策を重点的に推進
- 「先手先手」の気候変動適応の推進
- あらゆる関係者の気候変動適応の実践を後押し
- 気候変動対策による明るい未来に向けたコミュニケーション

3．分野別施策の方針　第３次気候変動影響評価報告書において特に優先的に対応すべきとされた影響に対して重点化（p.４）

- ①農業・林業・水産業
- ②水環境・水資源
- ③自然生態系
- ④自然災害・沿岸域
- ⑤健康
- ⑥産業・経済活動 国民生活・都市生活

4．基盤的施策の方針　あらゆる関係者の適応を実践につなげるため、基盤となる分野横断的に施策の方針を取りまとめ（p.５）

- 地域：①便益が実感できる適応等による地域における実践の促進
- 事業者：②気候変動適応を通じた事業者の競争力強化
- 国際：③サプライチェーンの強靭化等につながる国際協力の推進
- 基幹：④あらゆる関連施策と気候変動適応策によるシナジーの促進
- 基幹：⑤気候変動適応の実践促進につながる科学的知見の充実

5．進捗管理　気候変動適応推進会議において関係省庁の施策の進捗状況を確認しつつ、政府全体の適応を推進

（参考）気候変動適応計画構成の比較

※ <>は気候変動適応適応法
第７条第２項各号との対応関係

環境省

現行気候変動適応計画

第１章　気候変動適応に関する施策の基本的方向

(1)目標(2)計画期間(3)関係者の基本的役割
(4)基本戦略
① あらゆる関連施策に気候変動適応を組み込む
② 科学的知見に基づく気候変動適応を推進する
③ 我が国の研究機関の英知を集約し、情報基盤を整備する
④ 地域の実情に応じた気候変動適応を推進する
⑤ 国民の理解を深め、事業活動に応じた気候変動適応を促進する
⑥ 開発途上国の適応能力の向上に貢献する
⑦ 関係行政機関の緊密な連携協力体制を確保する
(5)気候変動適応計画の進捗の管理・評価

関係主体の行動変容を促し、気候変動適応の**実践につなげていくことに重点をおいて基本戦略を見直し**

計画の進捗の管理・評価は第4章に記載

第２章　気候変動適応に関する分野別施策

【農業、林業、水産業】【水環境・水資源】【自然生態系】
【自然災害・沿岸域】【健康】【産業・経済活動】
【国民生活・都市生活】

第３章　気候変動適応に関する基盤的施策

(1)気候変動等に関する科学的知見の充実及びその活用に関する基盤的施策
(2)気候変動等に関する情報の収集、整理、分析及び提供を行う体制の確保に関する基盤的施策
(3)地方公共団体の気候変動適応に関する施策の促進に関する基盤的施策
(4)事業者等の気候変動適応及び気候変動適応に資する事業活動の促進に関する基盤的施策
(5)気候変動等に関する国際連携の確保及び国際協力の推進に関する基盤的施策

関連施策の網羅的な整理から、基本戦略を基にして、**施策を推進していく方針を示す形に見直し**

第４章　熱中症対策実行計画に関する基本的事項

第2章の【健康】分野に記載

次期気候変動適応計画　骨子（案）

第１章　気候変動適応に関する施策の基本的方向<二号>

(1)目標　(2)計画期間<一号>
(3)基本戦略
① **深刻な影響に対して適応に係る国の施策を重点的に推進**
② **「先手先手」の気候変動適応の推進**
③ **あらゆる関係者の気候変動適応の実践を後押しする施策を重点的に推進**
④ **気候変動対策による明るい未来に向けたコミュニケーション**

第２章　気候変動適応に関する分野別施策の方針

【農業、林業、水産業】【水環境・水資源】【自然生態系】
【自然災害・沿岸域】【健康】<十号>
【産業・経済活動、国民生活・都市生活】

第３章　気候変動適応に関する基盤的施策の方針

(1)便益が実感できる気候変動適応等による地域における実践の促進<六号>
(2)気候変動適応を通じた事業者の競争力強化<七号>
(3)サプライチェーンの強靭化等につながる国際協力の推進<八号>
(4)あらゆる関連施策と気候変動適応策によるシナジーの促進<九号>
(5)気候変動適応の実践促進につながる科学的知見の充実<三号><四号><五号>

第４章　気候変動適応計画の進捗の管理・評価

今後、個別の施策一覧は別冊として整理予定

次期気候変動適応計画の「基本戦略」

①深刻な影響に対して適応に係る国の施策を重点的に推進

- 第３次気候変動影響評価報告書では、**特に優先的に対応が必要な影響を明らかにした。これらへの適応策を中心に取り組むことで、効果的・効率的に社会全体の気候変動適応を促進**。
- 適応には、他分野とのシナジーにより、関係者の抱える課題を同時に解決しウェルビーイングを向上させるポテンシャル。

②「先手先手」の気候変動適応の推進

- 「環境基本計画」に記載されている未然防止原則や予防的な取組方法の考え方を踏まえ、将来の気候変動影響に一定の不確実性があることをもって対策を遅らせることなく、**気候変動による被害が生じる前に気候変動適応を実践に移す先手先手のアプローチが重要**。

③あらゆる関係者の気候変動適応の実践を後押しする施策を重点的に推進

- 気候変動適応の進展状況を踏まえれば、関係者におけるの基盤の整備が進捗。
- あらゆる**関係者が気候変動を自分事としてとらえ、行動に移すことが重要であり、実践を後押しすることに重点を置く必要**。
- 気候変動適応に関する**官民投資額の目標を設定し、気候変動への危機管理投資である社会全体の適応を加速化**。

④気候変動対策による明るい未来に向けたコミュニケーション

- 関係者が、気候変動適応が**ウェルビーイング向上につながることを理解することで実践するインセンティブ**が生まれ、積極的な取組の促進につながる可能性。
- 気候変動対策を通じて暗い未来だけでなく、**将来世代を中心として関係者が明るい未来を思い描くことができるよう、コミュニケーションの推進**が不可欠。

気候変動適応に関する分野別施策の方針（影響及び施策の例）

環境省

■ **気候変動影響評価報告書において明らかにされた特に優先的に対応すべき影響とされたものを中心に適応策を重点的に推進**

農業・林業・水産業

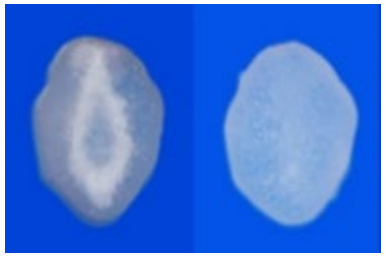
影響の例

コメの収量・品質低下

施策の例

➢気候変動に対応するスマート技術の活用を含む生産安定技術の開発・普及促進

➢高温耐性・病害虫抵抗性品種の開発・普及



白未熟粒(左)と
正常粒(右)の断面

水環境・水資源

影響の例

渇水の増加・農業用水等の不足

施策の例

➢渇水対応タイムラインの作成による水系・地域全体の渇水対応力の向上

➢必要な農業用水を確保するための農業水利施設の整備推進



渇水によるダム貯水率の低下

自然生態系

影響の例

生物の分布域の変化

施策の例

➢保護地域や自然共生サイトを活用した生態系の保全・回復

➢駆除や防護柵の設置、緩衝帯の管理を含めた野生鳥獣対策



ニホンジカによる高山植物への食害
<静岡県提供>

自然災害・沿岸域

影響の例

洪水・内水氾濫・土砂災害の増加

施策の例

➢ハード・ソフト一体となった国土強靭化に資する「流域治水」の推進

➢防災・減災に資するグリーンインフラの活用の推進



集中豪雨による河川氾濫

健康

影響の例

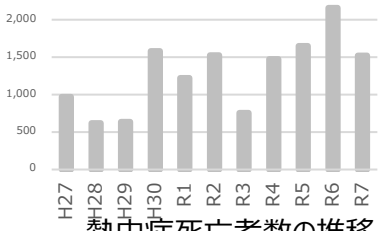
熱中症による救急搬送者数・死亡者数の増加

施策の例

➢クーリングシェルターの効果的・効率的配置等の支援

➢屋外で働く人への熱中症対策の推進

H30年以降、R３年を除き
熱中症死亡者数1,000人超



熱中症死亡者数の推移

産業・経済活動、国民生活・都市生活

影響の例

電気・ガス・水道などライフラインの寸断

施策の例

➢再エネをはじめとした自立・分散型エネルギーや省エネ等の導入推進による地域・くらしのレジリエンス向上



台風により水没した変電所

気候変動適応に関する基盤的施策の方針（例）

環境省

①便益が実感できる気候変動適応等による地域における実践の促進

限られたリソースの中で効率的、効果的に適応策を講じていくことが必要なため、地方創生にもつながるもの等、**便益が実感できる適応策の事例創出・横展開や効果の見える化を推進していく**

（例）
- 地域課題を同時に解決するような適応策の事例創出・横展開、効果の見える化の推進
- 地域気候変動適応センター等との連携強化
- 気候変動適応先進地域の創出



球磨川流域における流域治水の取組



高温水に強いワカメの品種開発

②気候変動適応を通じた事業者の競争力強化

企業が気候変動適応に取り組むことは、事業の**持続可能性を高める上で不可欠**。さらに、**新たな事業機会の創出**の観点からも重要。気候変動適応を通じた事業者の**競争力強化を図っていく。**

（例）
- 民間事業者にとってのベネフィットの見える化等を通じて、民間事業者の取り組みやすい環境整備
- 消費者の理解増進等による適応ビジネスの促進
- 気候リスクマネジメントの優良事例の横展開



民間事業者向け手引き



気候変動リスク分析情報サイト

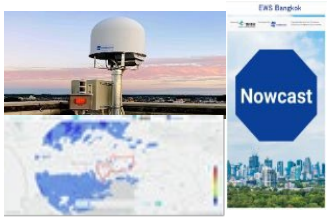
③サプライチェーンの強靭化等につながる国際協力の推進

日本の科学的知見や技術等を活かし、途上国の**適応能力の向上に向け支援**を進める。適応ビジネスの海外展開の活動支援等を通じて、**サプライチェーン強靭化や事業機会創出**を図っていく

（例）
- 各種国際ルールに積極的に関与し、民間事業者の力を最大限活かした国際協力の展開
- 早期警戒システムを途上国に実装



ワルシャワ国際メカニズム第24回執行委員会



早期警戒システム（例：ウェザーニューズ社）

④あらゆる関連施策と気候変動適応策によるシナジーの促進

政府一体となって連携し、気候変動に対する強靭な社会の実現だけでなく、気候変動適応策について**様々な分野の政策とのシナジー効果を発揮**していく

（例）
- 気候変動適応推進会議による政府一体となった適応の推進
- あらゆる関連施策への気候変動適応の組み込み
- 適応策のシナジー効果による明るい未来の発信

⑤気候変動適応の実践促進につながる科学的知見の充実

気候変動影響評価の現状分析や将来予測の発展を進めるとともに、経済・社会面からの情報や行動につながる知識を整備する等、**情報の充実及び質の向上を図っていく**

（例）
- 経済的影響等の定量化、社会的影響の解像度の向上
- 適応策の効果の評価手法の開発やAIを含む最新の情報科学技術を活用した情報基盤の整備

令和８年度地域関連事業について

気候変動適応地域づくり推進事業　概要（令和８年度予定）

全国事業

地域における気候変動影響に応じて、地域特性を加味しながら適応策や地域適応計画を立案するために必要な、共通的な知見や手法の創出を目指します。

- **地域特性を加味した気候変動影響評価手法の検討**

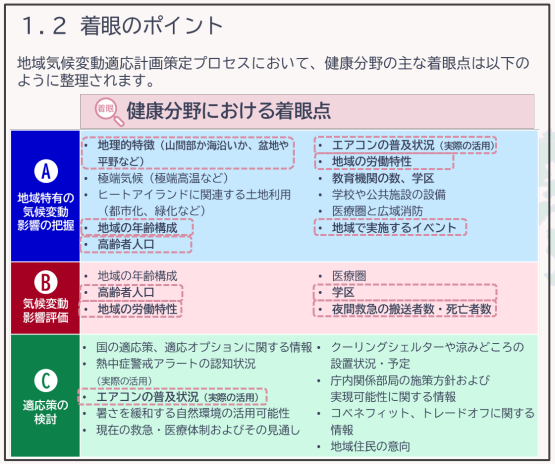
  地方公共団体および地域気候変動適応センターが、地域の特性に応じた気候変動影響に関する予測等を行うための手法について、これまでに国内で実施されている手法等を整理し、取りまとめることを目指す。

検討会開催概要

分野	４分野 (健康、水環境・水資源、農林水産業、自然生態系)
参加者	有識者、地域気候変動適応センター、地方公共団体、気候変動適応センター、環境省、関係省庁等

「地域特性を考慮した気候変動影響評価及び気候変動適応策の検討の手引き」
https://www.env.go.jp/content/000387702.pdf

R8年3月
健康分野（熱中症）を公開しました



気候変動の影響や必要な適応策は、地域の気候や地形、文化、社会経済状況など地域の特性によって大きく異なります。
　地方公共団体や地域気候変動適応センター等が、地域特性を考慮した気候変動影響評価や適応策の検討を進める際に参考としていただけるよう、健康分野（熱中症）に関する手引きを作成しました。今後は、他の分野についても、同様の手引きの作成を検討しています。

地域事業

北海道、東北、関東、中部、近畿、中国四国、九州・沖縄　全国７ブロック

令和5年３月に策定された「気候変動適応における広域アクションプラン」を推進するとともに、各地域の課題やニーズに合わせた取組を検討・実施いたします。

※具体的な実施内容は各ブロックで異なります。

- **気候変動適応広域協議会の開催・運営**
- **分科会等、地域の適応課題に関する情報共有及び意見交換の場の設置・開催**
- **気候変動適応における広域アクションプランのフォローアップ**
- **アクションプラン等に基づく地域の適応課題に関する調査・実証・検証・モニタリング等**
- **普及啓発**

令和７年度

気候変動適応を通じたフェーズフリーな防災共助体制整備事業

実施主体：環境省
事業費　：50百万円
対象事業：連携事業

事業目的

気候変動による災害について学び、その対策（適応策）を実践する機会を提供することで、地域における平時の協力連携体制を活用したフェーズフリーな防災共助体制の整備を促進します。

事業概要

連携先：地方公共団体、民間団体、市民等

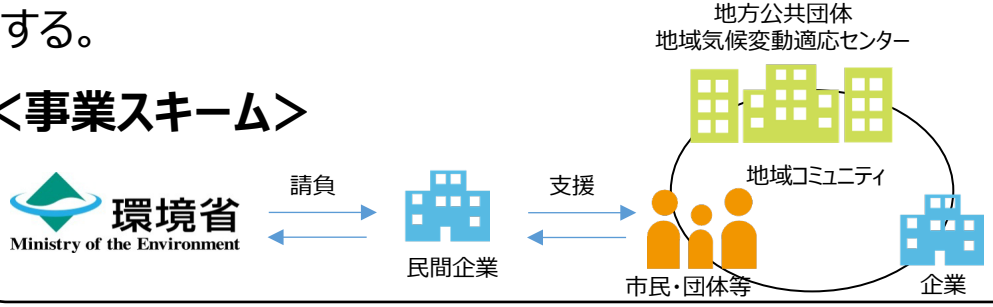
＜現状及び課題＞

気候変動によって気象災害が頻発化・激甚化することが懸念されている一方で、地域防災力の基盤として地域コミュニティの持続可能性の確保が課題となっている。

＜取組内容＞

本事業では、気候変動による災害の頻発化・激甚化を学び、NbS（Nature-based-Solution）を取り入れた防災対策等の取り組みについて地域で実践する機会を提供することを通じて、気候変動問題に関心が高い若年層の防災への理解促進を図り、地区防災計画の策定・取組の参画と、避難生活支援サポーター等のすそ野を拡大等することにより、フェーズフリーな防災共助体制の整備を促進する。

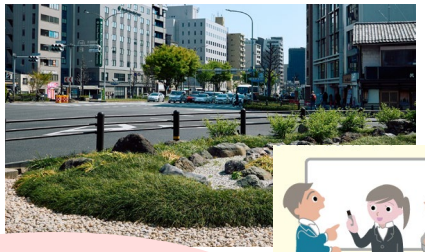
＜事業スキーム＞



実施イメージ

モデル地域における実践ワークショップ

地域気候変動適応センター等と連携し、ワークショップを通じて、雨庭づくりなど地域のコミュニティレベルで取り組むことができる気候変動適応策の実践及び防災知識を学ぶ機会を提供。

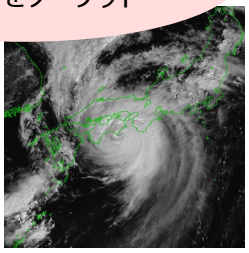


画像：気候変動適応情報プラットフォームより

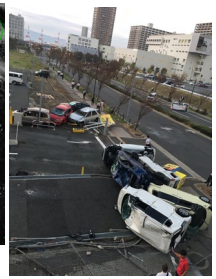
気候変動に関心の高い若年層をターゲット

全国的な情報発信

気候変動による災害の頻発化・激甚化と地域コミュニティにおける防災の取組、災害ボランティアの正しい知識について、気象予報士や専門家等と連携し、全国的な周知を行う。



令和元年台風19号
（気象庁より）



H30台風21号
大阪府咲洲庁舎周辺の車両被害

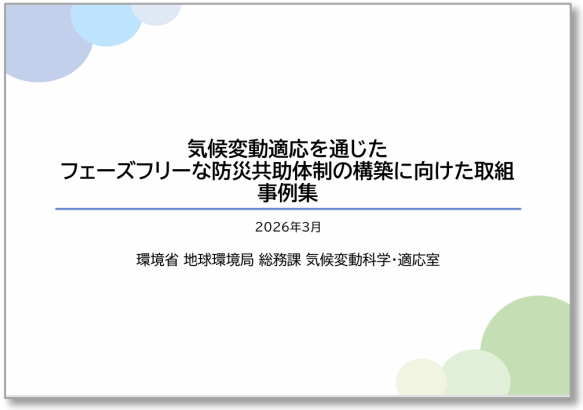
＜本事業により得られる効果＞

気候変動適応関連の情報発信ツール等※を活用して全国に取組を展開

※　気候変動適応情報プラットフォーム（A-PLAT）、気候変動適応広域協議会
地域気候変動適応センター・地方公共団体等とのネットワーク　など

令和7年度気候変動適応を通じたフェーズフリーな防災共助体制整備業務 モデル事例集を公表しました

環境省


気候変動適応を通じた
フェーズフリーな防災共助体制の構築に向けた取組
事例集

2026年3月

環境省 地球環境局 総務課 気候変動科学・適応室

https://www.env.go.jp/content/000401419.pdf


1. 遊水地の機能をARで体験！～あさはた緑地をハブとした防災共助体制の構築に向けて～【グリーンパークあさはた（静岡県静岡市）】

基本情報

■団体の基本情報
・(一社)グリーンパークあさはたは、あさはた緑地の指定管理者
・あさはた緑地は2021年に麻機遊水地の中に開園した公園で、平時は遊具や原っぱなどの利用が盛んで、有事は遊水地として機能
・ミズアオイ、オニバスなどの希少な植物が生育しており、地域の方とともに保全活動等を実施
・指定管理の活動目的はあさはた緑地の活用と防災機能の普及啓発

過去の気象災害・気象災害リスク

・昭和49年7月7日～8日の七夕豪雨では、浸水家屋26千戸以上、多数の犠牲者を出す等の甚大な被害が発生。
⇒被害を受けて昭和50年から麻機地域の特性（平坦で水が溜まりやすい）を生かし、麻機遊水地の整備が始まった。
・令和4年台風15号でも記録的豪雨により、清水区を中心に床上浸水の被害が発生したが、麻機遊水地も遊水機能を発揮し、被害軽減に貢献！

大雨時巴川から遊水地へ越流する様子

取組の内容

■背景・目的
・公園としての地域利用や自然観察などは盛んだが、遊水機能についての防災側面の普及啓発には課題がある。
・本事業をとおして地域の防災ハブとなり、平時からの地域力をあげたい。
⇒近隣学校及び施設の職員の方と、防災・減災に向けた課題を共有し、互いに協力できる点を模索するとともに、今後の防災共助体制を考えるきっかけとする。

■取組内容
・あさはた緑地内でウォークラリーを実施
✓ 遊水機能が発揮された様子のAR体験
✓ 生物や普段の活動等の解説
・専門家からの話題提供
✓ 麻機地域の生物多様性
✓ 気候変動による影響と適応策
・参加者による意見交換

ミズアオイ
オニバス

ポイント
災害・防災はネガティブな印象を持たれることも…
⇒遊水地ならではの希少な生物がいることもご紹介し、自然の営みと恵みは表裏一体であることが伝わるように工夫！

3


あさはた緑地をハブとした防災共助体制
ークあさはた（静岡県静岡市）】

る話題提供
話題提供を実施！
✓ スマホやタブレットで遊水機能発揮時の浸水状況をARで確認
✓ ARだけでなく生物多様性や平時の活動の様子などの写真・解説も確認
✓ 全国的な気候変動リスクや適応策及び、東海地方のリスクについて（環境省）
✓ 麻機遊水地の特徴とあさはた緑地における生物多様性保全について（国立環境研究所 田和氏）

■意見交換
以下の2つのテーマで話し合い、参加者は活発な意見交換を実施！
✓ あさはた緑地に対する認識の共有
✓ あさはた緑地の活用に向けたニーズの共有、地域の団結力・防災力の向上に向けた情報共有

今後の防災共助体制構築に向けて

■具体的な課題や緑地活用の意見も
・学校や施設がかかえる防災についての課題感を共有でき、あさはた緑地の今後の具体的な活用策についても意見が挙がった！
■今回のワークショップがキックオフに
・参加者からも継続的な連携、話し合う場の設置を望む意見があった。
⇒今回のワークショップをきっかけに継続的な地域連携への期待が高まった！

参加者の声
・生徒が課題解決に貢献し、外部発信できるような活動で連携したい
・地域防災の共助体制を構築していきたい

4

◆ グリーンパークあさはた（静岡県静岡市）
遊水地の機能をARで体験！～あさはた緑地をハブとした防災共助体制の構築に向けて～

◆舞の里小学校・九州大学大学院　ほか（福岡県古賀市）
大人と子どもでつくる雨庭～舞の里小学校ＡＭＥＮＩＷＡプロジェクト2025～

◆ 富里市気候変動対策プラットフォーム（千葉県富里市）
地域みんなで考え、共創する　～できることから始める気候変動対策～

◆ OKAYAMAお片づけチームmomo（岡山県岡山市）
気象災害を知り、災害時の行動を考える　～フェーズフリーな暮らしと防災大作戦～

◆ NPO法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）（静岡県牧之原市）
地元高校生と考える防災アクション　～災害共助コミュニティのために～

全国的な情報発信

気候変動×防災～私たちになにができる？これからの備えと助け合い～

専門家による話題提供と専門家と参加者が双方向に話し合う場を設けたサイエンスカフェ形式

2026 年 3 月 4 日（水）14:00～16:00
日比谷国際ビル　コンファレンススクエア



参加者
対面（学生） 22 名
オンライン 129 名



ゲスト
気象予報士、防災士　天達 武史 氏
九州大学工学研究院 環境社会部門 准教授　林 博徳 氏
NPO全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 事務局長
明城 徹也 氏


環境省
Ministry of the Environment